

街を行く

第84回 浅草 Asakusa

変革の街なのです

仕事やプライベートでよく訪れる浅草の街は、本連載ではもうとっくに取り上げた気になっていましたが、実は初めてでした。

訪れたのは休日の朝でしたが、すでに多くの人で賑わい、地下鉄浅草駅は混雑しています。その多くは外国人観光客で、旅行ガイドを掲げ目当ての場所を探しています。その場所は十中八九が浅草寺雷門です。山門に吊るされた巨大提灯の周辺では記念写真の撮影ラッシュで、いま流行りの自撮り棒をかいくぐりながら歩くのがやっという有様です。飛び交っている言

葉はほとんど中国語でした。政治の世界における日中関係は微妙ですが、満面の笑みで決めポーズをとる中国人旅行者の表情に対立感情などあるものでしょうか。国際観光地浅草の風景につくづく平和を感じました。観光は、資源や武器を持たない日本にとって平和的な外交戦略の一環でもかと思っています。その意味で浅草は、国に大きく寄与していると思います。

反面、国内の観光地や街なかで複雑な気持ちを抱くことがあります。大阪の心齋橋でも東京の銀座でも同様ですが、行き違う人の多くが訪日観光客となり、その中に日本人の私がいると何だか肩身の狭い気分になってくるのです。そのうち日本中の観光地が彼らで埋め尽くされるのもそう遠くない話かもしれませんね。かといって観光収



浅草寺雷門は、訪日観光客でこった返している

入で街が潤うわけですから、肩身の狭さに文句を言う筋合いはないかもしれませんが、財布のヒモが堅い日本人に代わり、喜んで消費してくれているのですから、逆に感謝しなければ。日本人も単に貯めこむだけではなく消費もしないとマズイですね。長引いた不況のお蔭で沁みついてしまった「デフレ感覚」は早く捨てて去りたいところです。

かつては年配者ばかりだった浅草は若者も集まる開かれた街へ変わってきました。歴史ある街独特の伝統文化・様式は敷居が高く、年寄りには心地よいけれど、若者を遠ざけ街を先細りさせるくらいもあります。とはいえ、これを変えるのは若い人たちの力です。多世代に愛される街は多様な発展可能性を秘めています。浅草も伝統を守りながら姿を変えていく力を得たのではな

いでしょうか。10～20年後、どう変わっているのか楽しみです。

楽しみといえば、鰻に天麩羅、甘味など、この街には老舗名店が多くあります。旧き良き伝統の味は今も昔もわれわれの舌を喜ばせてくれます。こういう街は最高ですね！

南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。